

令和元年度SPOD事業計画

1. SPOD共通事業

- ・ SPODフォーラム
2019年8月28日(水)～30日(金)(3日間)
開催場所：愛媛大学
「全体テーマ：大学教育の組織力」
トップリーダーセミナーを併せて開催
- ・ SPOD内講師派遣(加盟校単位 各1回 計26回) 開催場所：各加盟校
原則として、1法人あたり1回とする。ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。
- ・ FD・SDに関する調査研究
- ・ SPOD将来構想ワーキンググループ
- ・ 情報提供サービス
 - ①研修プログラムガイド2019の発行(年1回,リーフレット及びホームページ掲載)
 - ②令和元年度SPOD活動報告書の発行(年1回,冊子及びホームページ掲載)
 - ③SPODホームページの管理・更新
 - ④SPODメールマガジンの発行(月1回程度)
- ・ その他コア運営協議会で承認された事業,プログラム等

2. FD事業

- ・ FD担当者研修 開催場所：愛媛大学
SPODフォーラム2019において開催
- ・ 新任教員研修(年5回)の実施・公開 開催場所：各コア校(愛媛大学は2回実施)
- ・ ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(年2回)の公開・実施
開催場所：徳島大学,愛媛大学
- ・ 各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2019に掲載したプログラム

3. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年4回）
開催場所：香川大学，愛媛大学
レベルⅠ（新任職員研修） 1回（香川大学）
レベルⅠ 1回（愛媛大学）
レベルⅡ 1回（愛媛大学）
レベルⅢ 1回（愛媛大学）
主担当：SPOD事務局 協力校：香川大学，愛媛大学
- ・職務別能力開発研修（年5回）
SPODフォーラム2019等において開催
主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年4回）
開催場所：愛媛県，徳島県，高知県
主担当：SPOD事務局 協力校：各コア校
- ・職員のための講師養成講座（年1回）開催場所：愛媛大学
SPODフォーラム2019において開催
- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2019に掲載したプログラム

4. SPOD運営

- ①総会（年1回）
- ②ネットワークコア運営協議会（月1回程度）
- ③事業評価委員会（書面開催）（年1回）
- ④監査（年1回）
- ⑤その他
 - i. FD／SD分科会
 - ・FD分科会（年1回） 総会と同日開催
 - ・SD分科会（年1回） 総会と同日開催
 - ii. SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施

4. 令和元年度全体総括

はじめに

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（ネットワーク略称：SPOD）は、四国内のFD・SD事業の効率化・高度化・実質化を行うことにより、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的の力量をもった高等教育のプロフェッショナルを輩出し、教育の質向上に資することを目的として、平成20年に設立された。平成23年に自主運営体制へ移行後も順調に事業を継続している。平成31年4月には、四国初の専門職大学として開学した高知リハビリテーション専門職大学の加盟により加盟校は過去最多の35校となり、11周年を迎えたSPODは新たな10年のスタートを切った。またSPOD最大のイベントであるSPODフォーラムについては、今年度は3年ぶりに愛媛大学で開催し、過去最高の参加者数となる535名（延べ1,734名）を記録した。

以下、事業計画の項目に沿って、それぞれの達成状況を概観していく。

(1) SPOD共通事業

① SPODフォーラム

あらゆる立場の教職員が、その場でのスキルアップにつながるような実践的なプログラムを提供することを目的として、8月に愛媛大学において「SPODフォーラム2019」を開催した。愛媛大学での開催は、平成28年度（SPODフォーラム2016）に実施して以来、3年ぶり7回目となる。昨年、節目の10年を迎え、新たな一步を踏み出した本フォーラムは、初日のポスターセッションに加え3日間で15の新規プログラムを含む全40のプログラムを開講した。本フォーラムでは、全体テーマに「大学教育の組織力」を掲げ、過去のアンケートに寄せられた参加者からの要望や時代のニーズ等を考慮しつつ、テーマに関連したプログラムを始めとした多種多様なプログラムを提供し、参加者それぞれの立場ごとに、自身が何を身につければよいのかを考える契機とした。

シンポジウムでは、「大学教育の組織力を高める」をテーマに3名のシンポジストの講演及びディスカッションを行った。まず、濱名篤氏は、学長の立場から、アセスメントポリシーを含む4つのポリシーなどの教学マネジメントの体制と目標達成に向けたリーダーシップの実践について述べた。次に、畠田敏行氏は、IR担当者としてトップの意思決定を支える立場から、現場が最高のパフォーマンスで活動できることを目的として、学内の教育改善情報の流通やロジスティクスを整える必要があると述べた。さらに、井上真琴氏は、事務職員としての自身の経験を踏まえ、大学教育の支援を行うためにできることと学ばなければならないことについて自身の考えを述べた。3名の話題提供の後、指定討論者（弓削俊洋愛媛大学教育担当理事・副学長）を交え、ディスカッションや質疑応答が行われた。参加者からは、「職員としてどうあるべきか、大学の将来をどう考えていくかについて、今一度考える良いきっかけとなった」「組織における意思決定までのプロセス（動き）が参考になった」「組織レベルでの改革の難しさを再認識したが業務についてより努力したいと思えた」等のコメントがあった。シンポジウムの講演記録は119～144ページに掲載している。

大学等の経営管理を担うために必要な情報を収集し、トップリーダーとしての能力を高めることを目的とした「トップリーダーセミナー」は、2名の講師によって2コマ連続で開講された。1コマ目の「管理職に求められる政策力」では、これからの大学入試、学生募集、高大接続の在り方について、「成長」をキーワードにいくつかの事例を解説しつつ、受講者が自校の方向性を考える上でのヒントを提供した。受講者からは、「非常に刺激を受けた。自身は管理職ではないが、管理職を上手に巻き込んで全体を動かせるようにしていきたい」「職員が身に付けるべき力、若手を育てるために管理職がもっておくべき『芯』の部分について学ぶことができた」等のコメントがあった。2コマ目の「地域に生き世界に伸びる大阪大学の挑戦」では、FD・SDの歴史や課題、そして大学の将来のために教員と職員それぞれが大切にすべきことは何かなどについて、講師の長年にわたる教育経験を基にした示唆から、受講者に熟考を促した。受講者からは、「社会連携・産学連携のイメージが理系寄りになっていたが、人文社会科学系と社会・企業との連携をどうしていくのかという大阪大学の事例を知ることができ、本学でも活かせると思った」「大阪大学の取組を財務的切り口で披露いただき、『国立大学としての存在意義』が明快に示されたことに感

銘を受けた」等のコメントがあった。

新規プログラムの中には、「カリキュラムコーディネーターのための基礎知識」があった。40名の参加者は、カリキュラムの編成、実施、評価、改善といった内部質保証に関する原理や実践的な知識を学んだ。参加者の所属大学におけるカリキュラムの現状と課題を共有するセッションも設けられ、参加者間の活発な議論もなされた。

初日のプログラム終了後には、今回で5回目となるポスターセッションを実施した。加盟校内外から21組（うち発表代表者の所属が加盟校7、加盟校外14）の取組発表があり、ポスターセッションを通じて各校のFD・SDの取組に関する活発な意見交換が行われた。また、参加者による投票及び審査員による審査を行い、5組に「優秀ポスター賞」を授与した。

本フォーラムには全国各地からの参加があり、参加者数は過去最高の535名（延べ1,734名）に上った。加盟校外からの参加者も近年増えており、今年度も6割が加盟校外からの参加者であった。フォーラム終了3週間後からWeb回答形式で実施した事後全体アンケートでは、回答者の99%から「満足」の評価を得るとともに、知識やスキルの習得及びそれらの現場での活用、意識改革等の各項目で、約90%が肯定的回答をするなど好結果となった。加盟校内外別の比較では、加盟校外参加者の方が全体的に肯定的回答者の割合が高く、全体的な満足度も高い傾向があった。加盟校外では、特に意欲の高い方が積極的にフォーラムに参加している傾向が見られ、こうした意欲の高い加盟校外参加者の存在は、学びの効果や意欲を高める等、加盟校内からの参加者にもより良い影響を与えるものと期待できる。また規模別では、規模が大きくなるほど全体的な満足度は高くなる傾向があった。

なお、事後全体アンケートではSPODフォーラムへの要望についても同時に調査しており、本アンケート結果及び要望への対応については、30～46ページに掲載しており、次回の「SPODフォーラム2020」は、6年ぶりに高知大学での開催を予定している。

② SPOD内講師派遣

各加盟校が希望する研修プログラムについて、SPODから担当講師を1法人あたり年に1回派遣するSPOD内講師派遣事業を実施し、ネットワークコア校（以下「コア校」という）及び阿南工業高等専門学校に所属する講師11名を25機関に派遣した。本事業により、FD・SDセンターやFD担当専任教員等の配置が困難な小規模校においても、自校で各種研修プログラムの開講が可能となっている。40以上の多岐にわたるプログラムを取り揃えており、派遣プログラム決定にあたっては、希望プログラムを選択した経緯や今後の各校のFD・SD活動の見通し、研修の目的や目標等について事前に調査を実施している。各加盟校におけるFD・SD活動等の方針に沿った活用ができることから、各加盟校からの評価も高く、組織等に与える影響も大きいと考えられる。

本事業は、年々受講者が増加しており、今年度の受講者は893名となった。近隣の加盟校で実施するプログラムに開催校以外の加盟校教職員が参加するケースも増えており、高知大学及び香川大学で実施したプログラムでは、他県からの参加者も見られた。また、本事業としての講師派遣は年1回であるが、講師派遣プログラムの複数回開講（経費は加盟校負担）を希望する加盟校も多く、各加盟校における学内研修の企画・立案にも活用されていることが窺える。

今後も本事業を継続的に実施できるよう、講師養成に努めるとともに、引き続き加盟校の実情に即したプログラムの提供に向けて取り組んでいく。

③ FD・SDに関する調査研究

FD専門部会では、「FDを受けた教員は、教育実践の中でどのような成果があったのか」という題目を立てた。SPODフォーラムについては、複数年連続受講の参加者に対して各々の授業で実践できているのかの効果検証を行ってはどうか、新任教員研修については数年を遡り各大学にて効果検証を行ってはどうか等の意見が出た。これらの調査研究の内容は、SPOD及び各大学の検証として活かせるため、同専門部会では引き続き、効果検証の具体的方法等についての検討を行う。

SD専門部会では、次世代リーダー養成ゼミナール修了生がどのような形で所属組織の管理運営に関与できているのか等、「行動変容」の観点から検証することを目的とした調査研究を行った。第1～3期修了生24名を対象として、主に対面型でヒアリング調査を実施した。ヒアリングデータを分析したところ、修了生の39%がリーダーである管理職となったことや、管理職でない者も部下の話聞き、部下がやりやすい環境を整えとともに上司の補佐を心掛けるなど「サーバントリーダーシップ」を発揮していることが明らかとなった。また、修了生自身が周囲から修了生として見られることを自覚していること、ゼミナールでの「学び」が自信になり、様々な形で活かされていることが分かった点が大きな成果であった。

なお本調査研究は、「次世代リーダー養成ゼミナール修了生は、その学びを現場で活かしているのか？」と題して、9月に実践女子大学（東京都）で開催された大学行政管理学会において研究発表を行った。大学行政管理学会で発表した研究内容は、53～54ページに掲載している。

④ SPOD将来構想

平成28年3月の総会で承認された「SPOD将来構想」（55ページ参照）に基づき、SPOD事業を実施している。今年度は、長期的方針の達成に向けた取組を進めた。

具体的には、長期的方針2の「SPODフォーラムを国内最高の教職員研修の機会にする」ため、受講者からの事後アンケートや事業評価委員会の意見等を踏まえ、「既存のFD・SDプログラムをフォーラムに集約」すべく、職務別能力開発研修を始めとした各種研修プログラムをSPODフォーラムに取り入れた。今回のSPODフォーラムでは、「SD担当者研修」「カリキュラムコーディネーターのための基礎知識」や、今年度好評であったプログラムやレベル別プログラムについてもSPODフォーラム内で実施する予定である。また、長期的方針3「SDの取り組みを発展させる」では、SPOD内講師派遣事業のプログラムリストにSDプログラムを増やす取組が功を奏し、昨年度に引き続き「学生支援」や「危機管理」のカテゴリーに含まれるSDプログラムを選択する加盟校が増えてきている。今後も、効率の良い運営を図るため、担当講師を各県に増やす試みを進めていく。長期的方針4「FDの取り組みは焦点化して取り組む」については、多くの受講者の集まるSPODフォーラムを活用して「FD担当者研修」を実施することで、効率的にFD担当者を支援できるよう工夫している。長期的方針5の「持続可能なSPODの組織体制を構築する」についても、SPODのSD業務及びSPOD運営を担う人員の人件費一人分をSPOD経費から支出していることに加え、SPODフォーラムのプログラムガイドブックを冊子からホームページ掲載に変更することで印刷経費を抑えるなど、SPODの「安定的な財政基盤を維持する」ための土台作りを進めている。

こうした取組を踏まえ、長期的方針1「能力開発の地域ネットワークのリーダーとしてのプレゼンスを高めていく」ための取組を今後も継続していく。

⑤ 情報提供サービス

SPODでは、活動内容やその成果の周知のため「研修プログラムガイド」「活動報告書」「ホームページ更新・管理、メールマガジンの発行」等を中心に情報提供を行っている。

以下に各項目に沿って詳細を記載する。

1) 研修プログラムガイド2019の発行

SPODでは、加盟校内で開催され、かつ加盟校教職員が相互に参加可能なFD・SDプログラムを網羅的に掲載した研修プログラムガイドを毎年発行し、加盟校の全教職員（約7,000人）に配付している。これにより、各加盟校の教職員は、自身の希望するプログラムを計画的に受講するために活用することができ、1月末までの受講者数は延べ2,000名以上となった。また、遠隔テレビ会議システムを活用したプログラムを1講座、eラーニングによるプログラムを1講座配信しており、当日対面の研修会場へ足を運ばない場合も遠隔会場やインターネット上で受講できるため、好評を得ている。

2) 令和元年度SPOD活動報告書の発行

今年度行ったSPOD事業の活動をまとめた本冊子「令和元年度SPOD活動報告書」を作成し、各関

係機関に配付するとともにSPODホームページに公開予定である。また、本報告書を基に、SPOD事業評価委員による事業評価を書面で行う予定である。

3) ホームページ更新・管理、メールマガジンの発行

SPODフォーラムを始め、各種プログラムの開催情報や研修資料、会議の議事概要や資料等をSPODホームページへ掲載した。また、研修等のイベントやSPODに関する各種情報などについて発信を行うSPODメールマガジンを、2ヶ月に1回程度約300名（全加盟校SPOD事務担当者を含む）の登録者に向けて配信した。さらに、加盟校からもイベント等の開催案内があり、加盟校内においてメール等で情報共有するなど、ネットワークを活かした情報発信を行っている。

4) その他

「FD・SDに関する調査研究」のとおり、昨年度に引き続き、大学行政管理学会で調査研究の成果発表を行った他、教育学術新聞（発行元：日本私立大学協会）に「SPODフォーラム2019」の記事が掲載されるなど、全国の高等教育機関へ向けた情報発信も行った。さらに、他地区のFD・SD推進組織から訪問調査を受け、SPODの運営体制等に関する情報交換を行った。

(2) FD事業

① FD担当者研修の実施・公開

FDを企画・運営・評価するために必要となる基礎的な知識と技能の習得を目的として、「FD担当者研修－カリキュラムコーディネーターのための基礎知識－」を実施した。本研修は、昨年度に引き続きSPODフォーラムのプログラムとして実施し、全国から40名（うち加盟校13名）の教職員が参加した。受講者からは、「自大学のカリキュラムの問題点を認識することができた」「カリキュラム改革の視点を持てた」等のコメントがあり、各大学でFD担当者を養成するための支援を充実させることができた。本研修は、次年度もSPODフォーラムのプログラムとして実施する予定である。

② 新任教員研修の実施・公開

本研修は、各コア校が主催する新任教員研修のどれを受講しても同様の効果を得られるよう、コア校間でプログラムを標準化している。各コア校で実施した新任教員研修には、加盟校内から14校59名（国立大学4校37名、公立大学2校4名、私立大学・短期大学8校18名）、加盟校外から1校3名の教員が参加し、アンケート回答者全員から「満足」という回答を得た。

標準化された本プログラムは、授業設計やシラバスの作成方法について主にグループワーク形式で学ぶものである。本プログラムは新任教員以外も受講が可能であり、自身の授業を見直すきっかけになるとともに授業改善に役立つ内容となっている。受講者からは「専門分野の異なる複数の先生方と共同で授業を設計することで、新たな視点や刺激を得ることができた」「シラバス作成について、授業の目的・到達目標が明確なほど授業構想がしっかりと作成できると感じ、また、ゴールである『付けたい力』に向かわせるための支援として、流れを考えることの大切さを再確認した」「アイスブレイクに十分時間をとることで、その後のグループワークが格段にうまくいくことが学べた」等のコメントがあった。特に、徳島大学開催の「授業設計ワークショップ」では、講義部分を事前にビデオ教材で学習し、事前課題を提出後に研修に参加するという「反転授業」形式を取り入れている。講義時間の短縮に加え、事前に研修の目的や内容を理解した上で参加できるため、受講者からも効率的に受講できると好評を得ている。

③ ティーチング・ポートフォリオ研修の実施・公開

「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を愛媛大学で7月及び9月に開催し、加盟校内から5校16名（国立大学2校12名、私立大学1校1名、高等専門学校2校3名）が参加した。受講後のアンケートでは、「理念や教育方針など普段深く考える機会のなかった部分について熟考し、自身の在

り方・教育の仕方を俯瞰的に考えることができたのは意義が大きかった」「自身の教育活動を振り返る良いきっかけになり今後の教育改善に活かせると思った。また、自身の教育理念とその戦略を即座に簡潔に語れるようになった」等のコメントがあり好評だった。また今年度は、プログラムの一部のみではあるが、外国人教員3名を通訳者と一緒におブザーバーとして受け入れた。本研修は、今後のワークショップで必要となるメンターの育成も目的の一つとしており、受講者のメンタリングスキル修得のためのプログラムも兼ねている。

④ 各種FDプログラムの開発・実施

過去のアンケート結果や教育現場の課題を踏まえ、アクティブ・ラーニングや学習評価、シラバス作成法、講義法等多岐にわたるプログラムを開講した。

徳島大学では、今年度から新しく「すぐ使える90分セミナー」と題したプログラムを実施し、1ヶ月に1回の間隔で「教学IR」をはじめとする10プログラムを開講した。その事後アンケートから、多くの参加者が自身の授業の中で使える事例をブラッシュアップできたことが分かった。

(3) SD事業

① SDプログラムの体系的・段階的・継続的实施

今年度実施した「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ～Ⅲ)」の研修では、加盟校18校から合計179名(国立大学5校138名、公立大学2校7名、私立大学・短期大学8校29名、高等専門学校3校5名)の職員が参加した。このうち、5月に香川大学で開催された新任職員研修(レベルⅠ)は、四国地区の国公立大学等の新任職員が集まる研修で、四国4県の持ち回りで毎年実施している。本研修は、職員として必要な基礎知識の習得だけでなく、設置形態を越えた職員間の相互交流・関係づくりの場を提供することも目的としており、受講者からは、「研修中のワークや情報交換会など、多くの人と接する機会があり、他大学の情報も得られる絶好の機会であった」「日頃の業務にすぐ活かせる内容だったので、心がけて実践していきたいと思った」「他大学の職員の話が聴くことができ、視野が広がった」等のコメントが多数寄せられた。

また、11月に開催されたレベルⅠ研修では、今年度から受講対象を「係員相当級の職員」から「大学職員として3年以上の経験のある係員相当級の職員又はこれに相当するもの」と明確にし、より受講者のニーズに寄り添ったプログラムとなるよう取り組んだ。講義受講後のアンケートでは、「大学職員歴10年近くの人も多く、組織や部署だけでなく経験年数の違う人と意見交換ができ、良い刺激を受けるとともにとても良い経験になった」「今後は上司をサポートしつつ、後輩にもアドバイスができるようになるよう意識しながら日々の業務に取り組みたい」等の前向きな意見が多く見られ、受講対象を明確化したことにより、講義内容もより一層理解を深められる充実したものとなった。

SPODフォーラムでは、「職員のためのプロジェクトマネジメント」や「スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ」などの各種SDプログラムに加え、職務別能力開発研修として社会連携系や学務系など職務別のプログラムを提供することで、幅広いニーズに応えることができた。

② 次世代リーダー養成プログラムの実施

「次世代リーダー養成ゼミナール」(2年間で8回実施)は、将来、所属大学でのトップリーダーや高等教育界のリーダーとして大学等の経営を担うために必要な知識、技能、態度を身につけた人材を養成することを目的としており、今年度で記念すべき10期目を迎えた。今期は9期生5名と10期生6名の計11名(国立大学3校5名、公立大学1校1名、私立大学・短期大学3校5名)で実施した。プログラムは「講義」「プロジェクト」「SD実践・演習」の3つの柱で構成されており、受講生には主体的・自主的に学ぶ姿勢が求められる。ゼミナールを修了するためには、毎回課されるレポートやプレゼンテーション課題をこなす必要があり、各自が企画したプロジェクトの実施とそのレポート作成も含まれる。今期で9期生5名が修了したことにより、本ゼミナール修了生は63名となった。修了生は、ゼミナールでの経験を

活かし、責任あるポストに配属されて様々な業務の企画・実施を行ったり、SPODや学内外の研修講師を務めたりするだけでなく、積極的に「SPOD－スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（以下、SPOD－SDC）」の資格を取得するなど、目覚ましい活躍をしている。

なお、本ゼミナールの一部講義については、高等教育の第一人者を講師に招いて開講しており、ゼミナール受講生以外も受講できるよう、SPOD加盟校の教職員にも開放している。今年度は延べ67名が開放講義に参加した。

③ 講師養成によるSDの継続的な実施

SPODでは、研修講師として必要な心構え、知識、技法を習得させることにより、将来のSPOD研修プログラムを担当するSD講師として育成することを目的として、学内での研修で講師を務める可能性のある職員や将来SD講師になる意欲のある職員を対象に講師養成講座を実施している。

今年度はSPODフォーラム2019内のプログラムとして開催され、加盟校外からも多くの受講者が参加した（加盟校内から4名、加盟校外から11名）。本講座は、説得力ある説明のポイントや話し方のレッスン等の要素も含まれており、日常の業務を遂行する上でも活かすことのできる内容となっている。受講者は、自身が設計したSD研修の模擬講義を実際に行い、その様子を撮影したビデオカメラの映像を見返すことで、自身の話し方や立ち振る舞いなどを客観的に見ることができただけでなく、講師や他の受講者からのアドバイスを受けて、各自が今後の課題を見つけることができた。講義後の受講者からのアンケートでは、「客観的に自分のプレゼンを見て評価することができたことが良かった」「プレゼンに対する心構え等を学べた」「動画撮影により、客観的に自分の立ち振る舞いを見られたことが良かった」等のコメントがあった。

今年度開講した「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅠ，Ⅱ）」、「SPODフォーラム2019」等の講師のうち、18名が本講座修了者及び次世代リーダー養成ゼミナール修了生であり、いずれも受講者から高い評価を得た。先輩職員がSD研修の講師を担うことのメリットとしては、職員としての自身の経験を取り入れた研修をすることで、受講者が職場での適用イメージを想像しやすい点、受講者が講師をロールモデルとして捉え、自分の将来像を描きやすい点などが挙げられる。職員自らが講師となって次世代の職員を育成していくというサイクル確立に向け、引き続き講師養成に努めていく。

④ SPOD-SDCの輩出

SPOD－SDCは、職員の能力開発に関する知識・技術を修得していると認定された教職員に付与される。今年度は新たに高知大学から1名、高知工科大学から1名、聖カタリナ大学から2名、愛媛大学から3名の計7名を認定した。現在のSPOD－SDC資格認定者は、合計32名となった。

SPODでは、各大学等のSDの自立的運営を目指しており、各加盟校が「SDの義務化」に対応し、自校のSD事業を推進できるよう、SPOD－SDC資格取得者の輩出を積極的に支援している。今年度は、高知大学及び高知工科大学から初めての資格認定者を輩出するなど、近年、資格認定者の所属機関数が増加している。今後も、資格認定者輩出に向けた取組を継続的に実施していく。

(4) SPOD運営

昨年度末の総会で承認され、4月に四国初の専門職大学として開学した高知リハビリテーション専門職大学が新たにSPODへ加盟し、SPOD加盟校は過去最多の35校となった。

また、コア校のFD・SD担当者等が一堂に会し、教職協働でSPOD事業の実施、運営上の諸課題を検討するネットワークコア運営協議会を、7回開催（うち6回は遠隔会議システムにて実施）した。本協議会では、本事業の進捗状況の報告の他、事業経費の執行、次年度の事業計画及び事業経費等についての検討を行った。協議会終了後には、各加盟校への情報提供として、協議会の議事概要や配付資料をSPODホームページに掲載している。

さらに、コア校のFD・SD担当者それぞれで構成するFD専門部会を1回（遠隔会議システムにて実

施)，SD専門部会を2回（1回は遠隔会議システム，1回は書面審議にて実施）開催し，各事業の進捗状況や成果及び今後の課題等について意見交換を行った。徳島大学では，昨年度に引き続き徳島県内加盟校会議を開催して情報共有や意見交換を行った他，高知大学でも高知県内加盟校会議を開催し，同大学で開催されるSPODフォーラム2020を中心に意見交換を行った。

3月には，各加盟校の代表者で構成するSPOD総会と，各加盟校のFD・SD各担当者が参加するFD・SD分科会を愛媛大学で実施し，総会での重要事項の審議に加え，事業の進捗状況や成果及び要望事項等について，加盟校全体で意見交換を行う予定である。

(5) 事業評価委員会からの指摘事項に対する対応状況

SPODでは，ネットワーク規約第11条及び事業評価委員会要項に基づき，SPODの実施する事業に対して評価を行い，その改善に資することを目的として，事業評価委員会を設置している。

平成28年度までは，報告書等に基づく評価を行うための委員会を毎年対面で開催してきたが，平成28年度事業評価委員会からの指摘事項に対する対応として，平成29年度からSPOD事業評価の在り方を見直した。その結果，各委員がより深くSPOD事業について把握できるよう，報告書等に基づく評価に加え，フォーラムを始めとしたSPOD事業視察の場を提供することとした。この見直しに基づき，2年間の委員任期の初年度は，当該年度中に実施した視察や報告書等を基に書面による意見・評価を，委員任期の最終年度は，2年間の総括として対面開催の委員会で総合的な意見・評価をいただくこととした。

委員任期の最終年度であった昨年度は，3月に対面にて事業評価委員会を開催した。出席者は，事業評価委員3名に加えて企画・実施統括者をはじめとするSPODネットワークコア校から各委員が参加し，委員3名から各々の立場で意見・評価をいただいた。

各委員からいただいた意見については，今年度の実施や，次年度の計画に組み込んだりするなどして概ね対応することができた。特にプログラムに関する意見は，SPODフォーラムを始めとする各種研修プログラムに取り入れ，より充実した内容での実施となった。

なお今年度は事業評価委員会委員が改選し2年任期の初年度にあたるため，SPODフォーラム2019の視察や活動報告書等をもとに，委員3名へ各々の視点から全体を通しての意見を書面にていただく予定である。

おわりに

上述のように，令和元年度も事業は概ね計画どおり進展し，多くの成果を生み出すことができた。SPODの各事業ともSPOD将来構想長期的方針の実現に向けて順調に推移している。特にSPODフォーラム2019において受講者数が過去最高となり，SPOD事業がこの11年で広く認知された証となった。今後も，事業評価委員会やSPOD加盟校の意見，各種アンケート結果，さらには教育施策の動向など，幅広い視点を取り入れながら，SPOD加盟校教職員にとってSPODがより有益なものとなるよう改善に努めていく。

SPOD加盟校においては，より一層本事業に御協力をいただくとともに，ネットワークの域を越えた方々からも引き続き御支援や御意見をいただければ幸いである。

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

企画・実施統括者

小林 直人（愛媛大学教育企画室室長・教授）

5. 令和元年度活動実績

(1) SPOD共通事業

① SPODフォーラム

日 時：令和元年8月28日（水）～30日（金）
場 所：愛媛大学城北キャンパス
主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）
全体テーマ：「大学教育の組織力」
参加費：SPOD加盟校の教職員 無料
SPOD加盟校以外の教職員 10,000円
参加者数：535名（延べ1,734名）

SPODフォーラムとは

大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ、多種多様で質の高いFD・SDプログラムならびに組織を越えた持続的な相互交流・関係づくりの場

特徴

1. 多彩な講師陣
2. 職場で使える実践型プログラム
3. SDプログラムも多数開講

実施内容及び成果

あらゆる立場の教職員が、その場でのスキルアップにつながるような実践的なプログラムを提供することを目的として、8月に愛媛大学において「SPODフォーラム2019」を開催した。愛媛大学での開催は、平成28年度（SPODフォーラム2016）に実施して以来、3年ぶり7回目となる。昨年、節目の10年を迎え、新たな一步を踏み出した本フォーラムは、初日のポスターセッションに加え3日間で15の新規プログラムを含む全40のプログラムを開講した。本フォーラムでは、全体テーマに「大学教育の組織力」を掲げ、過去のアンケートに寄せられた参加者からの要望や時代のニーズ等を考慮しつつ、テーマに関連したプログラムを始めとした多種多様なプログラムを提供し、参加者それぞれの立場ごとに、自身が何を身につければよいのかを考える契機とした。

シンポジウムでは、「大学教育の組織力を高める」をテーマに3名のシンポジストの講演及びディスカッションを行った。まず、濱名篤氏は、学長の立場から、アセスメントポリシーを含む4つのポリシーなどの教学マネジメントの体制と目標達成に向けたリーダーシップの実践について述べた。次に、畠田敏行氏は、IR担当者としてトップの意思決定を支える立場から、現場が最高のパフォーマンスで活動できることを目的として、学内の教育改善情報の流通やロジスティクスを整える必要があると述べた。さらに、井上真琴氏は、事務職員としての自身の経験を踏まえ、大学教育の支援を行うためにできることと学ばなければならないことについて自身の考えを述べた。3名の話題提供の後、指定討論者（弓削俊洋愛媛大学教育担当理事・副学長）を交え、ディスカッションや質疑応答が行われた。参加者からは、「職員としてどうあるべきか、大学の将来をどう考えていくかについて、今一度考える良いきっかけとなった」「組織における意思決定までのプロセス（動き）が参考になった」「組織レベルでの改革の難しさを再認識したが業務についてより努力したいと思えた」等のコメントがあった。

シンポジウムの講演記録は119～144ページに掲載している。



大学等の経営管理を担うために必要な情報を収集し、トップリーダーとしての能力を高めることを目的とした「トップリーダーセミナー」は、2名の講師によって2コマ連続で開講された。1コマ目の「管理職に求められる政策力」では、これからの大学入試、学生募集、高大接続の在り方について、「成長」をキーワードにいくつかの事例を解説しつつ、受講者が自校の方向性を考える上でのヒントを提供した。受講者からは、「非常に刺激を受けた。自身は管理職ではないが、管理職を上手に巻き込んで全体を動かせるようにしていきたい」「職員が身に付けるべき力、若手を育てるために管理職がもっておくべき『芯』の部分について学ぶことができた」等のコメントがあった。2コマ目の「地域に生き世界に伸びる大阪大学の挑戦」では、FD・SDの歴史や課題、そして大学の将来のために教員と職員それぞれが大切にすべきことは何かなどについて、講師の長年にわたる教育経験を基にした示唆から、受講者に熟考を促した。受講者からは、「社会連携・産学連携のイメージが理系寄りになっていたが、人文社会科学系と社会・企業との連携をどうしていくのかという大阪大学の事例を知ることができ、本学でも活かせると思った」「大阪大学の取組を財務的切り口で披露いただき、『国立大学としての存在意義』が明快に示されたことに感銘を受けた」等のコメントがあった。



新規プログラムの中には、「カリキュラムコーディネーターのための基礎知識」があった。40名の参加者は、カリキュラムの編成、実施、評価、改善といった内部質保証に関する原理や実践的な知識を学んだ。参加者の所属大学におけるカリキュラムの現状と課題を共有するセッションも設けられ、参加者間の活発な議論もなされた。

初日のプログラム終了後には、今回で5回目となるポスターセッションを実施した。加盟校内外から21組（うち発表代表者の所属が加盟校7、加盟校外14）

の取組発表があり、ポスターセッションを通じて各校のFD・SDの取組に関する活発な意見交換が行われた。また、参加者による投票及び審査員による審査を行い、5組に「優秀ポスター賞」を授与した。

本フォーラムには全国各地からの参加があり、参加者数は過去最高の535名（延べ1,734名）に上った。加盟校外からの参加者も近年増えており、今年度も6割が加盟校外からの参加者であった。フォーラム終了3週間後からWeb回答形式で実施した事後全体アンケートでは、回答者の99%から「満足」の評価を得るとともに、知識やスキルの習得及びそれらの現場での活用、意識改革等の各項目で、約90%が肯定的回答をするなど好結果となった。加盟校内外別の比較では、加盟校外参加者の方が全体的に肯定的回答者の割合が高く、全体的な満足度も高い傾向があった。加盟校外では、特に意欲の高い方が積極的にフォーラムに参加している傾向が見られ、こうした意欲の高い加盟校外参加者の存在は、学びの効果や意欲を高める等、加盟校内からの参加者にもより良い影響を与えるものと期待できる。また規模別では、規模が大きくなるほど全体的な満足度は高くなる傾向があった。



なお、事後全体アンケートではSPODフォーラムへの要望についても同時に調査しており、本アンケート結果ならびに要望への対応については、30～46ページに掲載しており、次回の「SPODフォーラム2020」は、6年ぶりに高知大学での開催を予定している。

SPODフォーラム2019の受講者数について（プログラム別）

日時	番号	プログラム名	講師	受講者数	教員	職員	①SPOD内	②SPOD外
8/28 1時限	2801A	始めよう！アクティブラーニング型授業－話し合いの技法編－	葛城 浩一	33	33	0	18	15
	2801B	高等教育機関のSDGsへの貢献を見る化する	小林 修	29	18	11	14	15
	2801C	大学職員のためのコーチング	小林 忠資	32	4	28	10	22
	2801D	教学 I Rが機能する組織におけるデータ管理	竹中 喜一 山咲 博昭	48	16	32	10	38
	2801E	大人教員のための	小林 直人	27	22	5	15	12
	2801F	職員のための「講師養成講座」	吉田 一恵 久保 秀二 大塚 陽介 宮原 秀明 小林 諒太郎	15	0	15	4	11
8/28 2時限	2802A	始めよう！アクティブラーニング型授業－教え合いの技法編－	佐藤 慶太	33	32	1	17	16
	2802B	若手職員向け超入門！研究者と学術情報流通	井上 昌彦	39	3	36	18	21
	2802C	人材育成のための人事評価－評価からパフォーマンス・マネジメントへ－	阿部 光伸	37	11	26	9	28
	2802D	IRデータ分析演習	高畑 貴志	38	16	22	19	19
	2802E	授業内グループワークへの参加意欲を高めるためのアイデア	村田 晋也	40	33	7	18	22
8/28 3時限	2803A	始めよう！アクティブラーニング型授業－文章作成の技法編－	西本 佳代	35	34	1	20	15
	2803B	地域連携マネジメント・プロジェクト企画論	坂本 世津夫	44	20	24	22	22
	2803C	若手職員のためのリーダーシップ入門	大本 盛嗣	29	4	25	14	15
	2803D	あなたもできるケースメソッド型授業・研修	上島 洋佑	46	36	10	15	31
	2803E	大学設置認可申請入門	長山 琢磨	66	8	58	15	51
8/29 1時限	2901A	反転授業をやってみよう－橋本メソッドの実践から－	金西 計英	35	34	1	13	22
	2901B	研究支援の基礎知識－ゼロから始める研究者との協働－	宮内 卓也	22	4	18	9	13
	2901C	職員のためのプロジェクト・マネジメント	丸山 智子 砂田 寛雅	37	2	35	12	25
	2901D	経験を学びにかえる－キャリア形成のためのふり振り返り入門－	塩崎 俊彦 末本 美千代	36	15	21	12	24
	2901E	トップリーダーセミナー「管理職に求められる政策力」	塩田 邦成	75	24	51	34	41
	2901F	ルーブリック評価入門－考える、つくる、活用する－	俣野 秀典	39	29	10	14	25
8/29 2時限	2902A	学生の学修を促す質問の作り方	川野 卓二	34	33	1	11	23
	2902B	事例で考える教職課程における多様な履修相談対応	小野 勝士	33	0	33	18	15
	2902C	スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ	吉松 明子 西尾 澄気 重松 映美	27	3	24	5	22
	2902D	発達障害の診断・傾向のある学生の対応方法	佐々木 銀河	71	30	41	49	22
	2902E	トップリーダーセミナー「地域に生き世界に伸びる 大阪大学の挑戦」	小川 哲生	77	25	52	34	43
	2902F	小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	俣野 秀典	37	35	2	15	22
8/29 3時限	2903G	シンポジウム「大学教育の組織力を高める」	濱名 篤 鳥田 敏行 井上 真琴 指定：弓削 俊洋 司会：小林 直人	267	129	138	117	150
8/30 1時限	3001A	グラフィックシラバスを書こう！	宮田 政徳	21	21	0	11	10
	3001B	理工系講義形式授業における発問を中心にした授業デザイン	神原 暢久 吉田 博	18	17	1	6	12
	3001C	大学職員の基礎力を考える	織田 隆司	36	3	33	14	22
	3001D	教職員のための「大学の危機管理」－事例から考えるハラスメント－	吉田 一恵 高木 佳代子	31	11	20	16	15
	3001E	教務事務関連法規の考え方－業務に活かす－	宮林 常崇	51	3	48	22	29
	3001F	カリキュラムコーディネーターのための基礎知識	中井 俊樹 佐藤 浩章	40	22	18	13	27
8/30 2時限	3002A	学びやすさを高めるための授業の再構造化	仲道 雅輝	21	21	0	8	13
	3002B	支え促す体験学習	高橋 平徳	11	9	2	5	6
	3002C	5年後のなりたい自分像のために－何から始めますか？－	各務 正 野口 里美	3	0	3	2	1
	3002D	教職員のための「初めての合理的配慮」講座	太田 琢磨 C B P ほか	33	6	27	19	14
	3002E	伝わるテクニックとしてのデザイン－レイアウト編－	徳田 明仁	83	30	53	49	34
合計				1729	796	933	746	983

※ポスターセッションのみ参加（プログラム受講なし）の5名（教員3名、職員2名）を含め、8/28～30延べ参加者数1734名

SPODフォーラム2019ポスターセッション「優秀ポスター賞」受賞取組一覧

投票場所：愛媛大学城北キャンパス 共通講義棟B 1階 CRI-1講義室
 投票期間：令和元年8月28日(水)17:40～令和元年8月29日(木)13:00
 表彰式：令和元年8月29日(木) 情報交換会時

ポスター番号	テーマ	発表代表者			SPOD加盟校	共同発表者 氏名(所属)
		氏名	所属			
7	全学初年次教育を通じたAL普及に向けた取組とその課題	塩川 奈々美	徳島大学 高等教育研究センター		○	
8	文学部によるAL型授業の新たな実践とその課題	野呂 靖	龍谷大学 文学部仏数学科			遊野 正道(龍谷大学 文学部) 恩田 清範(龍谷大学 文学部教務課)
12	ピアチュータープログラム開発と今後の展望	大場 枝里	神田外語大学 アカデミックサクセスセンター			ホール 真由子(神田外語大学 アカデミックサクセスセンター)
15	自己評価ルーブリックの異分野間共同開発の試み	大塚 みさ	実践女子大学短期大学部 日本語コミュニケーション学科			三田 薫(実践女子大学 短期大学部英語コミュニケーション学科) 清田 夏代(実践女子大学 教職センター)
21	新任職員育成制度「Rising3」について	室井 ひとみ	武庫川女子大学 教務部教務課			

SPODフォーラム2019ポスターセッション取組一覧

日時：令和元年8月28日(水)17:40～19:00
 場所：愛媛大学城北キャンパス 共通講義棟B 1階 CRI-1講義室

ポスター番号	テーマ	発表代表者			SPOD加盟校	共同発表者 氏名(所属)
		氏名	所属			
1	全教員で行う3学年4学科横断型PBL授業Go+workの実践と成果	大塚 毅彦	明石工業高等専門学校 建築学科 イノベーションオフィス長			
3	ラーニングポートフォリオを用いた振り返りによる効果	吉田 博	徳島大学 高等教育研究センター		○	
4	理工系FDプログラム 半期の授業設計から発問設計へ	榊原 暢久	芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター			吉田 博(徳島大学 高等教育研究センター)
5	組織で取り組むALと学修成果の可視化	清口 侑	京都光華女子大学短期大学部 学生サポートセンター			榎田 詩織(京都光華女子大学短期大学部 学生サポートセンター)
6	アクティブラーニングによる保健医療福祉教育のレリハンス	岡 多枝子	人間環境大学 松山看護学部		○	三並 めぐる(人間環境大学 松山看護学部)
7	全学初年次教育を通じたAL普及に向けた取組とその課題	塩川 奈々美	徳島大学 高等教育研究センター		○	
8	文学部によるAL型授業の新たな実践とその課題	野呂 靖	龍谷大学 文学部仏数学科			遊野 正道(龍谷大学 文学部) 恩田 清範(龍谷大学 文学部教務課)
9	ALer育成に向けた教職員研修体系の構築と組織的展開	馬本 勉	県立広島大学 総合教育センター			門戸 千幸(県立広島大学 総合教育センター) 岡田 高嘉(県立広島大学 総合教育センター) 川口 博之(県立広島大学 庄原キャンパス事務部教務課) 伊藤 俊(県立広島大学 本部教務課)
10	複雑化するキャリア支援のFD・SDの相補的統合	晶 一樹	徳島大学 高等教育研究センター		○	三木 正久(徳島大学 高等教育研究センター)
11	FD・SDによる教育改善への取り組み	内田 竜司	福岡歯科大学 教育支援・教学IR室			児玉 淳(福岡歯科大学 基礎医学部門門生体構造学講座機能構造学分野) 赤間 尚希(福岡歯科大学 教育支援・教学IR室)
12	ピアチュータープログラム開発と今後の展望	大場 枝里	神田外語大学 アカデミックサクセスセンター			ホール 真由子(神田外語大学 アカデミックサクセスセンター)
13	質保証のための意識改革～FD・SDウィークの試み	杉田 郁代	高知大学 大学教育創造センター		○	塩崎 俊彦(高知大学 大学教育創造センター) 小島 郷子(高知大学 大学教育創造センター) 高畑 貴志(高知大学 大学教育創造センター)
14	九州大学 次世代型大学教育開発拠点の取り組みと成果	小林 良彦	九州大学 基幹教育院次世代型大学教育開発センター			
15	自己評価ルーブリックの異分野間共同開発の試み	大塚 みさ	実践女子大学短期大学部 日本語コミュニケーション学科			三田 薫(実践女子大学 短期大学部英語コミュニケーション学科) 清田 夏代(実践女子大学 教職センター)
16	学位プログラムの現状整理 -新潟大学を事例として-	上島 洋佑	新潟大学 教育・学生支援機構			
17	全学で進む！トランスフォーメティブ・ラーニング実践	川畑 成之	阿南工業高等専門学校 創造技術工学科		○	松本 高志(阿南工業高等専門学校 創造技術工学科) 小松 実(阿南工業高等専門学校 創造技術工学科) 山田 耕太郎(阿南工業高等専門学校 創造技術工学科) 太田 健吾(阿南工業高等専門学校 創造技術工学科)
18	学生による授業評価から考える授業改善	宮崎 大樹	高知学園短期大学 幼児保育学科		○	
19	循環型人材育成推進の取り組み	中嶋 克成	徳山大学 福祉情報学部			寺田 篤史(徳山大学 経済学部) 河田 正樹(徳山大学 経済学部)
20	リーダーシップ科目における振り返りのテキスト分析	佐伯 勇	甲南女子大学 人間科学部			
21	新任職員育成制度「Rising3」について	室井 ひとみ	武庫川女子大学 教務部教務課			
22	大学間連携組織のSD実践 -大学コンソーシアム大阪-	芳中 宗一郎	大阪産業大学 教育研究推進センター-教学推進課			塩川 雅美(大阪市立大学 高等教育研究院) 小林 諒太郎(大阪経済大学 総務部人事課) 宮原 秀明(大阪学院大学 庶務課兼社会連携室)

※ポスター番号2は、諸事情により発表辞退となりました。